補助金|生産緑地を活用した体験農園等普及事業 補助金制度

(都市農地活用推進モデル事業)

締切: 随時

_{最大}1,000万円

申請難易度:★★★★☆

東京都

🚯 制度の概要

生産緑地の貸借制度を活用し、都市農地保全と「農」を通じた**多世代交流・地域交流の活性** 化を併せて進める体験農園等の整備・運営を支援する制度です。「わくわく都民農園小金井」をモデルとした取組を都内へ波及させることを目指しています。

農業生産のほか、防災やレクリエーション等の<mark>多面的機能を有する生産緑地</mark>等の貴重な都市 農地の保全を推進し、生産緑地の2022年問題への対応と高齢社会における地域活性化を同 時に実現する画期的な制度です。

■ 支援内容

□ 整備に関する費用

工事費、農業機械等の初期導入費用

最大1,000万円

補助率: 1/2以内

□ 運営に関する費用

農園管理人件費、生産緑地賃借料等3年間継続

1年目1,000万円

補助率: 2/3以内

◎ 対象となる取組

【整備関連】

- □ 体験農園等の施設建設・整備工事
- □ 農業機械・設備の導入
- □ ビニールハウス等農業施設の設置

【運営関連】

- □ 農園管理に係る人件費
- □ 生産緑地の賃借料
- □ 多世代・地域交流活動の実施
- □ 体験農園の運営管理費

→ 対象者

- □ 生産緑地貸借制度を活用する個人事業主
- □ 都市農地保全を行う法人
- □ 多世代交流事業を実施する地方自治体

♀ 採択率向上のポイント

- □ 多世代交流の具体性:シニア・子ども・地域住民の参加計画
- □ モデル参考の活用:わくわく都民農園の視察と要素導入
- □ 事前相談の実施:アドバイザー派遣制度の積極活用
- □ 継続性の明示:3年間の運営計画と収支見込み

些 戦略的分析

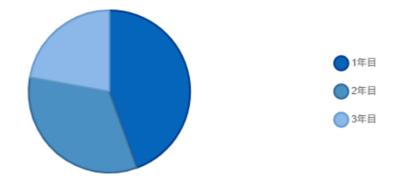
【補助金設計の特徴】

- □ 整備と運営の両面をカバーする包括設計
- □ 運営費は逓減方式で自立化を促進
- □ 東京都の政策連携で相談体制が充実

【段階的なステップアップ戦略】

- □ 1年目は手厚い支援で基盤構築
- □ 2年目以降は段階的自立を想定
- □ モデル農園の成功事例を活用した展開

● 運営費補助の推移



補助率の推移:2/3→1/2→1/3の段階的減額設計 **上限額合計:**最大2.250万円(3年間)

Y モデル農園の実績

区画種別	面積・対象
シニア農園	1,020㎡・51区画・50歳以上
共菜園	60㎡・保育園児体験実習
福祉農園	150㎡・高齢者・障がい者連携
地域農園	150㎡・多世代交流活動
こども農園	120㎡・小学生年間体験

♣ 専門家活用のススメ

- □ 相談窓口活用:小金井市観光まちおこし協会へ事前相談
- □ アドバイザー派遣:モデル農園のノウハウを直接指導
- □ 視察機会活用:わくわく都民農園の現地見学
- □ 行政書士連携:生産緑地貸借手続きの専門支援

▶ 必要書類とチェックポイント

*このレポートは生成AIにて作成されています【2025/1/11作成】

提出書類	チェックポイント
事業計画書	□ 多世代交流 の具体的プログラム記載 □ 3年間の運営計画を詳細に明示
収支予算書	□ 整備費と運営費を明確に区分□ 補助率に応じた自己負担額を算出
生産緑地貸借契約書	□ 貸借制度に基づく適法な契約□ 賃借料が市場相場に適合
団体概要書	□ 農業・地域活動の実績記載 □ 運営体制と責任者を明確化

曲 申請スケジュール

● 事前準備期間

書類準備に3~6ヶ月程度。生産緑地貸借手続きと並行実施。 モデル農園視察とアドバイザー相談を必ず実施。

● 申請受付

2024年7月1日から随時受付

産業労働局農林水産部農業振興課へ直接申請。

◆ 審査期間

申請後1~2ヶ月程度(書類審査・現地確認)

● 交付決定

審査完了後に交付決定通知書発送

▶ 事業実施

交付決定後~事業開始。

実績報告は各年度末までに提出必須

▲ 補足事項

- □ 運営費補助は2年目750万円、3年目500万円と段階的減額
- □ 生産緑地貸借制度を活用した農地のみが対象

② 問い合わせ

制度詳細 https://www.sangyo-rodo.metro.tokyo.lg.jp/nourin/nougyou/hozen/tos

hinouchi_kari/

相談窓口 https://wakuwaku-advice.koganei-kanko.jp/

お問い合わせ 東京都産業労働局農林水産部農業振興課

TEL: 03-5320-4814